

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Risk of postpartum depression and very early child mistreatment among mothers reporting higher autistic traits: Evidence from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 自閉傾向が高い妊婦における産後鬱および極早期養育過誤のリスク: エコチル調査からの結果

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of affective disorders

年: 2021 月: 2 巻: 280 頁: 11~16

筆頭著者名: 細澤麻里子

所属UC名: 大阪UC

目的:

社会的なつながりは、周産期の産後鬱や養育過誤の予防において重要である。一方、社会的なつながりを築くことが苦手な妊婦はこれらのハイリスクである可能性がある。本研究では、自閉傾向が高い妊婦における、産後一か月時点での産後鬱および児の養育過誤のリスクを検討し、産前のソーシャルサポートの媒介効果を評価した。

方法:

精神疾患の既往のない、単体児の母親73,532人を対象とした。産前に自閉症スペクトラム指数日本語版(短縮版)を用いて自閉傾向を自己評価し、通常範囲内、中等度、高度の3群に分類した。産後1か月時に、エジンバラ産後鬱病自己評価票を用いて産後鬱を、自記質問紙で養育過誤の有無を評価した。妊娠中の個別のソーシャルサポートの程度も評価した。ポアソン回帰分析を用いて解析した。

結果:

自閉傾向が高い母は、通常範囲内の母に比べて約2倍産後鬱のリスクが高かった。また、養育過誤のリスクも約1.4倍高かった。産前のソーシャルサポートは、自閉傾向と産後鬱および養育過誤を関係の約25-30%を媒介した。

考察:(研究の限界を含める)

自閉傾向が高い妊婦は、産後早期の産後鬱および養育過誤のリスクが高く、また産前からのソーシャルサポートがこの関連を部分的に媒介した。説明変数結果変数ともに自己記載評価であったこと、ソーシャルサポートは個人レベルの主として情緒的サポートのみを検討したことが限界としてあげられる。

結論:

自覚的な自閉傾向が高い妊婦は、産後早期の産後鬱および養育過誤のリスクがある。産前からソーシャルサポートを提供することは、これらのリスクを軽減しうる。